

飲みません」その一言が護身術

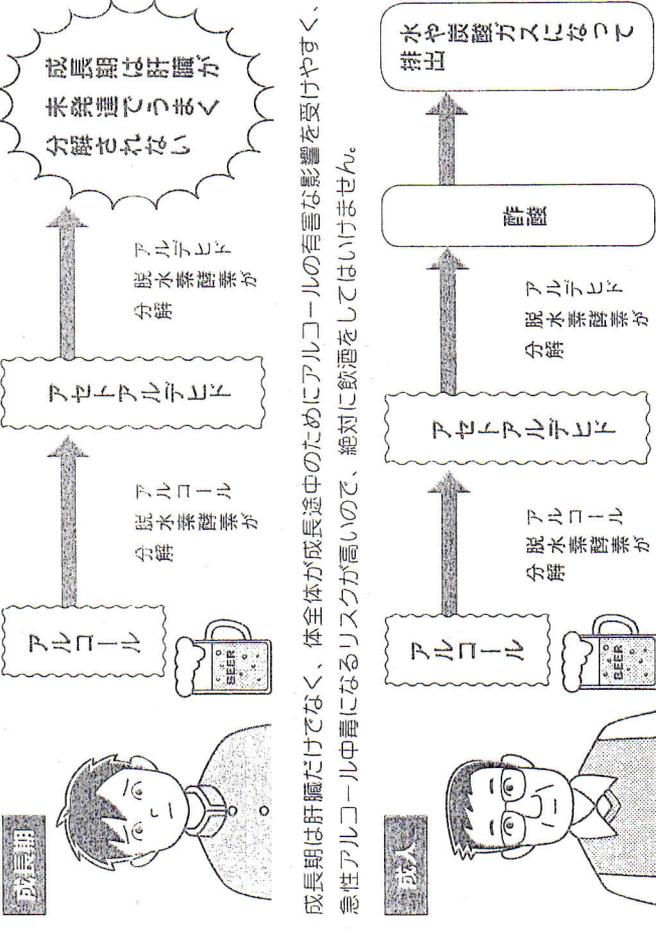
平成29年度未成年飲酒防止啓発ホスター キャッチゴピー

肝臓に影響を及ぼすアルコールの害

指導/順天堂大学 医学部 消化器内科学講座 教授 池嶋 健一 先生

肝臓には、体内に取り入れたアルコールをはじめとする化学物質を分解して無毒にする役割があります。しかし、肝臓が分解できる量の限度以上にアルコールを摂取した場合は、肝臓でうまく処理できずに有害な成分が残り、体に悪影響を与えます。また、長い間過剰にアルコールを摂取すると、肝臓に負担がかかります。負担によって傷み、機能が低下してぼこぼこした形になった肝臓は、なかなか元の状態に戻らなくなります。未成年の飲酒は、肝臓を傷めるほかに、依存症を招くなどの危険性もあり、法律で禁止されています。

成長期と成人の肝臓でのアルコール分解能力の違い

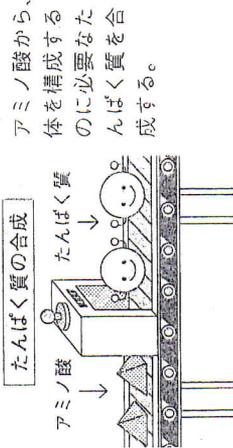
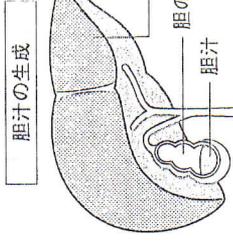
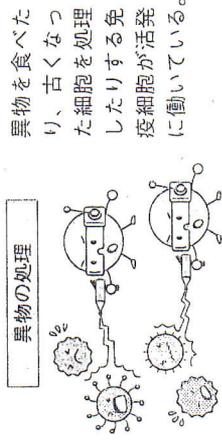
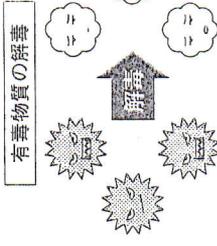


成長期は肝臓だけでなく、体全体が成長中のためにアルコールの有害な影響を受けやすく、急性アルコール中毒になるリスクが高いので、絶対に飲酒をしてはいけません。

成人してもアルコールを分解する酵素がないため、全く飲酒できない人もいます。また、限度を超えてお酒を飲むと、有害な成分が分解しきれずに残って、体に悪影響を与えます。

肝臓の主な役割

肝臓には、生命を維持するための役割がたくさんあります。アルコールの影響などで肝臓がダメージを受けるとこれらの機能が果たせなくなります。将来のためにもお酒に手は出さず、肝臓を大切にしましょう。



アルコールパッチテストで、体質をチェック

用意するもの

消毒用エタノール（アルコール）、パッチテスト用ばんそうこう、時計、スポイトなど。

方法

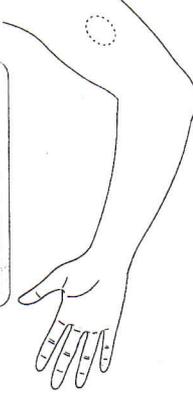
アルコールを滴らしたばんそうこうを上腕の内側に貼り、10分後にはがす。はがしたら7分待ち、腕の様子を観察する。

赤くなかった人



アセトアルデヒドを分解しにくいタイプです。少量の飲酒で頭痛や吐き気を起こしやすい体質です。

色が変わらなかった人



アセトアルデヒドを分解しやすいタイプです。お酒を飲んでも体調不良が起きにくいので、分解できる限度を超えて飲み過ぎやすい体質です。